

絆

京山長老
俊翁

京都第一赤だより

き ず な

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

春号

2009年4月発行
vol. 36



当院は昨年11月に5年ぶりの更新で病院機能評価 Ver.5.を受審しました。医療崩壊が叫ばれる中で、この一年間日常診療の傍ら機能評価受審の準備を行うについては、全職員の苦労が絶えませんでした。特に改善要望事項なく本年1月19日付けで認定を受けることができました。このような時代であるからこそ第三者による評価を受けて、さらに病院機能を高めていくことができればと思います。

春は別れと新たな出会いの季節ですが、当院でも4月1日に常勤医21名、専攻医14名、研修医・研修歯科医22名、コメディカルスタッフ11名、看護師・助産師65名、事務職員4名の計137名の新入職員を迎えました。若く新しいパワーを内に取り込みつつ、一つの組織体として同じ方向に向かって進んでいきたいと思えます。連携医療機関の皆様には、新入職員を始め当院を今後とも宜しくご指導下さいますようお願い申し上げます。

京都第一赤十字病院 副院長 河野 義雄

A background image of several bright yellow flowers, possibly tulips, with green leaves, set against a light yellow background. The flowers are in various stages of bloom, with some showing the center and stamens.

診療科 から

総合周産期 母子医療センターにおける 小児外科の活動

小児外科部長
出口 英一

皆様、こんにちは。このたび伝統ある京都第一赤十字病院の小児外科部長として平成20年10月1日付で着任いたしました。私は昭和55年に京都府立医科大学を卒業し、小児外科を志望して順天堂大学医学部の小児外科で7年間修練しました。昭和62年から母校である京都府立医科大学の小児疾患研究施設外科第一部門に勤務し、引き続いて平成11年7月から約5年間当院に勤務、いったん京都府立医科大学に戻っていましたが、縁あって昨秋から再び当院に戻ってまいりました。卒業後25年余に亘る小児外科での臨床・研究の経験をもとに新生児外科、小児消化器外科をはじめ漏斗胸に対するNuss手術など、小児期の手術を幅広く担当しております。特に新生児外科の分野では、総合周産期母子医療センターのなかで外科診療を担当しますので、小児科(新生児科)ならびに産科の医師、看護スタッフとの連携が大変重要と考えて努力を重ねております。

当院には京都府下で唯一の総合周産期母子医療センターが設置され、地域の周産期医療の中核をなしています。新生児集中治療室(NICU)には、在胎週数22週以降の低出生体重児や重症仮死、外科・脳外科領域の重篤な疾患を有する新生児が入院しますが、そのなかでの外科処置を小児外科が担当しています。最近の6ヶ月間では、気管食道瘻を有する先天性食道閉鎖1例、回腸閉鎖1例、鎖肛2例を手術治療しました。また、腹部膨満と嘔吐で緊急搬送されたヒルシュブルグ病の新生児2例について診断と管理を行いました。さらに、超低出生体重児(338g)で壊死性腸炎(第Ⅰ期)の患児の診療を新生児科のスタッフと協力して行っております。

小児外科では「患児と患児を取り巻く家族に優しい、心ある医療」をモットーに新生児外科をはじめとして小児外科一般の診断ならびに手術治療を行っています。小児科、新生児科、産婦人科と密に連携して早期診断・早期治療を心がけ、